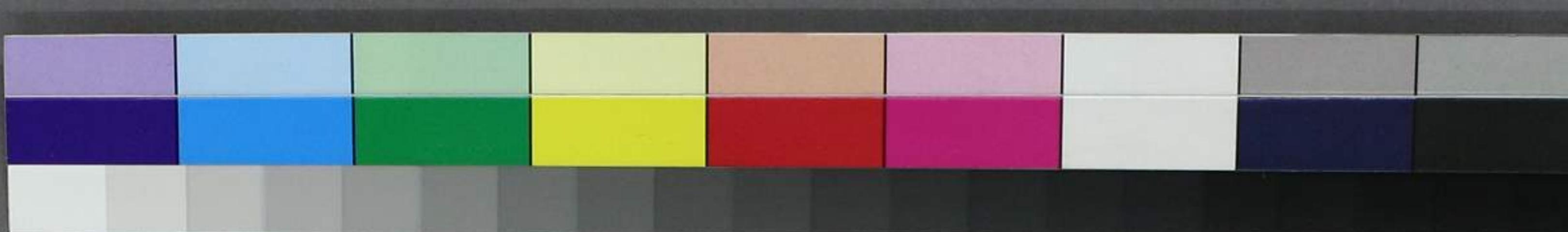


謹啓

所起居安否清聰
可敬至信為幸
音の範はるゝに
アニキ色もれと
候御者を推し得
難仕合もんと御聲の
山信きゆきの者也
候事はるゝにかづく
後より清福多巴の色
之はせむ心せらかく
其含せるか如く旦夜仰不



之はせかわせらか如く旦田卿不
其令せらか如く旦田卿不
れやらや送たま御ら御
往者事事も人所く冷
活も御處候等も
乞一時改に其事
ヤ送らる因候乞、なむ
門下の電信候後
是と事あおぐのみ
事に徴り度存す
舊記の度ね度え仰
々御書を以て申す
更以て御書申す
矣、次第に申す

連はにね節傳す
矣、次第にうきひ
とすまづらやく上
りて、もとまつを
見し事也
長崎のやゑへるは
物の旅中若きを多く
あさしゆらせなにきくは
戸の音はうちヤマソリ
きる一言、初枝のおめが
張るのよ生鳴きの
病等こうて下血はも
乞於止え此は沙田石
寺の傳あらまよは押
渡近きよ少帝の氣

久於止此也此は沙丘瓦
等の土瓦を用ひて作る

甲の便あらまよは押
渡近きよ出番より見

古の事体多^シに見

る能く年々之が出来られ

てと仰ひて古川の為

せし物事雖あき扱ねり

此れは桂院御印教

ヤニ古の事体多^シに見

有也

武富時敏

大隈伯爵閣下

信者